

教育セミナー5 安全な高気圧酸素治療に向けての取り組み

池田由美子

天草地域医療センター 看護部

【はじめに】

当院の高気圧酸素治療は平成5年に導入され平成28年度まで8566回稼働している。その治療以来の対応、始業前点検や治療操作、さらに治療中の観察と対処を全てICU看護師が行っている。高気圧酸素について知識に乏しく、常に火災や爆発の恐怖に怯えて、担当したくない業務であった。平成22年度からは、患者だけでなく看護師にも安心・安全な治療ができる事を目標にかかげ、自らの取り組みを行ってきたので、この7年間を振り返り紹介する。

【取り組み前】

専門医や専門技師は不在で、看護師が治療オーダー後の対応をしているが、専門的な知識はない。操作方法も装置付属の取扱説明書しかなく、経験者が口頭で説明したのを各自がメモし操作していた。オリエンテーション用紙も業者が提示している危険物の絵などを使用し作られていたが、文字が細かく要点が分かりにくかった。また、高気圧酸素治療指示書は存在したが、説明・同意書はなかった。治療する際は、患者申し送り書としてオリエンテーション用紙に記載してある物が除去されているかダブルチェックしていた。

【取り組み内容】

平成22年：まず、装置操作を行うICU看護師への学習会を実施し、全看護師を対象にアンケート調査をおこなった。そのアンケート結果で全看護師の68%が十分なオリエンテーションが出来ていないと答えた事、患者からも全くイメージできなかったという回答が58%あり、オリエンテーション用紙を写真入りで文字も大きく作り直した。また、説明・同意書がない事も患者にとってイメージできない要因の一つだと考え、早急に必要性を医師に訴え、共に説明・同意書を作成した。さらに、手技統一での安全性向上のため装置操作手順書を作成した。施行前チェック表も、必要な事がダブルチェックできるよう内容を見直し、看護師か

らの問い合わせが多い持ち込める物に関する一覧表を作成、全病棟に配布した。

平成24年：ICU看護師への再アンケート結果では、手順書や持ち込める物一覧表に関しては全員が活用しているのが確認でき、その事で、不安が軽減した又は無くなったと全員が答えている。

平成25年：全看護師のアンケート結果で半数以上が、治療方法や効果・合併症がわからないとの回答に対して、学習会を行った。また、5年ぶりに減圧症患者の対応をするにあたり、医師にとっても手探り状態であったため今後の対応がスムーズにおこなえるよう、学会書籍を参考に医師とプロトコルを作成した。

平成29年：全看護師へのアンケートを実施し、前回に比べ、オリエンテーションが十分にできたとの回答が12%から65%になり、持ち込める物に関する75%が活用しているとの結果だった。しかし、高気圧酸素治療の方法や効果・合併症に関する理解は、前回とほぼ変わらず、学習会以外の方法として院内新聞発行を開始した。また、ICU看護師に対しては定期的に学習会を行っている。

【今後の課題】

全看護師に対して、安全対策の必要性理解と協力を得るために、意識調査を初め記録内容の検討を考えている。さらに、患者に対しても満足度や要望に関する聞き取りを行っていききたい。また、治療には医師の理解が欠かせず、この点も大きな課題であるが、当院の現状は多くの一般施設でも類似していると思われる。